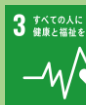


「静岡メロン漬け」で ゆりあげ港朝市復興支援

「朝市に人を呼べるような漬物を作って、賑わいを取り戻したい」という「ゆりあげ港朝市」の願いに、磐田の高校生が立ち上がりました。



NPO法人高校生農業塾

所在地：磐田市
ホームページアドレス
<https://www.koukouseinougyou.com/>
メール：
koukouseinougyou@gmail.com
商品開発、販売、支援活動

NPO

一般社団法人 全国農業協同組合中央会 (JA全中)

所在地：東京都千代田区
ホームページアドレス
<https://www.zenchu-ja.or.jp/>
TEL：03-6665-6000
マッチング

NPO

ゆりあげ港朝市協同組合

所在地：宮城県名取市
ホームページアドレス
<https://www.yuriageasaichi.jp/>
メール：info@yuriageasaichi.jp
支援依頼、販売場所提供

協同組合

JA全中が被災地の支援活動を全国の高校生に呼びかけ、ゆりあげ港朝市からの支援依頼に応じて高校生農業塾が商品開発し、ゆりあげ港朝市で静岡メロン漬けを販売しています。

震災を乗り越え賑わいを見せる宮城県の朝市

日曜日の早朝、宮城県名取市のゆりあげ港朝市は様々なお店が出てお客様で賑わっています。その一方で、高校生農業塾の高校生が、メロン漬けを販売していました。夜行バスで現地にきた高校生は眠さも吹き飛ばし元気な声で「いらっしゃいませ～」と接客しています。「毎年楽しみにしているよ」とお客様も笑顔です。メロン漬けは開店から1時間30分後には完売となりました。(2019年)

東日本大震災の復興を高校生と！

2011年の東日本大震災の津波により、関上（ゆりあげ）地区は壊滅的な被害を受けました。それでも2週間後には別の場所で朝市を再開し、震災後に落ち込んでいた市民の心に光を灯しました。2012年に一般社団法人 全国農業協同組合中央会が主催の「全国高校生 みんなDE笑顔プロジェクト」が立ち上がります。被災地の支援活動を全国の高校生に呼びかけるプロジェクトで、ゆりあげ港朝市からは「朝市の名物となるような漬物を高校生と作って、朝市を盛り上げたい」という申し込みがありました。避難所生活の炊き出しではご飯やパンは支給されるもののおかずは届かず、塩気のある漬物が見直されていました。

朝市の名物となる漬物の開発・販売

そのプロジェクトに手をあげたのが、磐田農業高校の桂武彦先生が立ち上げた「高校生農業塾」でした。学校で育てている農作物の中で、間引いて破棄する摘

果メロンと摘果みかんを有効利用し、子メロン漬けにみかん果汁で風味付けをした「静岡メロン漬け」を開発しました。開発ではミカンの味の調整が難しく、2012年10月には、まだ試作段階の漬物を携えて第1次隊がゆりあげ港朝市に出店し、朝市の方にも食べていただき協力して味を調整しました。以降、改善を重ねながら2019年までに12回販売をおこなっています。



現地の方々との絆を深める

その間、高校生農業塾は、出店だけにとどまらず、他店のお手伝いや花苗提供、テーブルと椅子の製作、募金活動など、様々な形で復興支援に携わりました。交流する中で現地の方々が語り部となり高校生に震災体験をお話する光景が見られたり、高校生が地元のお宅に宿泊したり、絆が深まっていきました。そして高校生は、朝市のお店のみなさんに前掛けや帽子を手作りしてプレゼント！「とても丈夫で温かみがあり嬉しいです」と朝市の方々も大喜びでした。



コロナ禍でも続いている交流

ゆりあげ港朝市は以前の賑わいを取り戻しつつありますが、まだまだ復興は道半ばです。現在、新型コロナウイルス感染症の影響で高校生が朝市に行くのは難しいため、新たな支援方法を模索しています。これからも、復興に向けてお互いに交流を続けていくそうです。



これからの展望

高校生農業塾は2018年、高校生の社会参加・農業振興・地域活性化を目的にNPO法人化。学校の枠を超えた活動に進化しています。2021年、宮城県での販売だけでなく、全国各地のイベントにも参加し、高校生の力で、静岡県農業を全国に広める活動を展開していきます。

Point

高校生の復興支援からはじまったプロジェクトとして、商品開発だけでなく復興について多くのことを学ぶことができました。支援する側される側ではなく、協働相手として、一緒に朝市を盛り上げ、助け合ってプロジェクトを進めることができました。